

教 育 長 様

代表者 校 園 名：大阪市立開平小学校

公印

校 園 長 名：赤銅 久和

電 話：06-6203-4212 F A X：06-6203-4404

申請者 校 園 名：大阪市立開平小学校

職 名・名 前：教諭・椿本 恵子

電 話：06-6203-4212 F A X：06-6203-4404

代表者校 園 事務職員名：吉川 学聡

平成 29 年度 「がんばる先生支援」グループ研究 報告書

◇ 平成 29 年度「がんばる先生支援」グループ研究について、次のとおり報告します。

1	研究コース： いずれかを○で囲んでください。 <div style="text-align: center;"> グループ研究 A コース ・ グループ研究 B コース </div> いずれかを○で囲んでください。 新規研究（1 年目） 継続研究：（ 2 年目 3 年目 ）
2	研究テーマ 学びのユニバーサルデザインの視点に基づく音楽科授業デザインの開発 ―郷土の伝統音楽を教材とした学びの創造の在り方― ◆ 研究内容のキーワード： 研究の内容をキーワードで書いてください。 （【例】学力向上、体力向上等） 郷土の伝統音楽・学びのユニバーサルデザイン・主体的で対話的な深い学び・教材化 音楽科授業デザイン・ICT活用・カリキュラムづくり
3	研究目的： 箇条書きで端的に書いてください。 ○児童に対し、本研究を通して「天神祭囃子」や「物売りの声」といった生活の中で無意識に接している船場の「郷土の伝統音楽」を教材化し、音楽科における学びのユニバーサルデザインを進めることで、一層特色のある活動として構築していく。 ○今回の研究は、障がい児にとっても、健常児にとっても、主体的・対話的で深い学びを推進することのできる音楽の授業づくりである。「視覚化」「共有化」「焦点化」を図り、新学習指導要領のポイントを踏まえた系統的なカリキュラムの作成を目的とすることから、今後の大阪市の伝統音楽の学習材の開発につながる研究としていく。
4	取り組んだ研究内容： いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 ① 「郷土の音楽」や「船場に伝わる伝統音楽」についての音楽科授業先行事例の収集と整理（4 月～6 月） 方法：「船場に伝わる伝統音楽」のみならず、日本全国における郷土の音楽を教材とした音楽科授業実践事例を文献（各種研究会記録、各学校園研究紀要、発刊書籍）等により収集し、分析した。分析することにより、「①子どもたちの実体験・生活経験をもとにした学習活動」「②教材を体験する場の設定」「③教材の特質に着目する場の設定」「④自らの生活に照らし合わせていく場の設定」の重要性が明らかになった。①②④として「A 身体で音楽を感じる場（視覚化・共有化）」「B 音楽の特質に着目する場（焦点化）」を授業づくりの視点として設定することとした。 ② 郷土の伝統音楽（船場）フィールドワーク（4 月～1 月） 方法：船場に伝わる郷土の伝統音楽の実地調査を踏まえ、その音楽の特質の抽出を行った。校区調査（船場に残るうたの発掘／5～8 月）、天神祭（祭本番前の練習の様子も取材／6・7 月）生國魂神社夏祭（7 月）、難波神社夏祭（7 月）、御霊神社夏祭（7 月）を行った。メンバー全員で取材を行い、取材後に、教材化にむけての討議を行った。討議の中で、その音楽を特徴づける特質の抽出を行った。 ③ ①②を踏まえ、子どもたちの学びのユニバーサルデザインを図った新たな授業の開発（5 月～3 月） 方法：見出した 2 つの授業づくりの視点、教材の特質を踏まえ、学びの系統性を考慮し、新たな授業実践並びに、本校における郷土の音楽カリキュラムを考案し、実施した。すべての実践を、ビデオ・写真で記録し、各授業ごとに視点に基づき授業分析をすることで、次の授業への改善点をメンバーで討議し、実践を進めていった。

- ④ ①～③による知見をもとに、船場における郷土の伝統音楽を教材とした音楽科授業づくりの視点の再整理・体系化（6月～3月）
方法：全授業終了後に、改めて授業ビデオ記録を分析し、郷土の伝統音楽を教材としたユニバーサルデザインに基づく授業づくりの視点の再整理を行った。分析にあたっては、子どもの発言・教師の手立てから再整理を行い、各場面において有効な手立てを明らかにした。

実践学年	実践月	領域	単元名
第1学年	6月	創作	言葉の抑揚を意識して《物売り声》をつくろう
	9月	創作	拍の流れを意識して《かぞえうた》をつくろう
	11月	鑑賞	鉦の音色を意識して《天神祭の地車囃子》を味わおう
	2月	鑑賞	リズムを意識して《天神祭どんどこ船のお囃子》を味わおう
第2学年	10月	創作	リズムを意識して《船場通り名覚え歌》のつづきをつくろう
第3学年	1月	器楽	速度を意識し《天神祭の地車囃子》を演奏しよう
第4学年	11月	器楽	リズムを意識して《天神祭どんどこ船のお囃子》を演奏しよう
第5学年	10月	器楽	リズムを意識して《天神祭どんどこ船のお囃子》を演奏しよう
	2月	鑑賞	間を意識して《御霊神社の枕太鼓のお囃子》を味わおう
第6学年	9月	器楽	リズムを意識して《天神祭どんどこ船のお囃子》を演奏しよう
	11月	鑑賞	間を意識して《御霊神社の枕太鼓のお囃子》を味わおう
	12月	創作	リズムを意識してオリジナルの《船場通り名覚え歌》をつくろう
特別支援学級	1月	歌唱	拍の流れを意識して《船場通り名覚え歌》をうたおう

- ⑤ ①～④における知見をもとに、大阪市鑑賞部全市授業公開（11月28日、第1学年「鉦の音色を意識して天神祭の《地車囃子》を味わおう」）、がんばる先生事業全市公開授業（2月7日、第1学年「リズムを意識して天神祭《どんどこ船のお囃子》を味わおう」、第5学年「間を意識して御霊神社の《枕太鼓のお囃子》を味わおう」）を行った。

5 成果・課題：申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。

- 音楽科の授業における「学びのユニバーサルデザイン」の視点として、「①身体で音楽を感じる場（視覚化・共有化）」「②音楽の特質に着目する場（焦点化）」の有用性を明らかにすることができた。
- 船場で生活することによる児童の生活経験を踏まえた活動にすることで、より「主体的」に学びに向かい、共に生活する地域への学びにより「対話的」に学び、「深い」学びを推し進めていくことができた。
- 各教科・領域との関連を図りながら授業構成を図ることができた。このことにより、本校における他教科・領域とのつながりを踏まえた「郷土の音楽カリキュラム」を構築することができた。
- 地域と協働によるカリキュラム開発を行ったことにより、研究発表会において、各学校において活用可能な地域学習の在り方を提案することができた。
- 本年度、実践前、実践終了後に児童アンケートを行った。
実践前アンケートでは、「天神祭は知っていましたか（58%）」「天神祭で音楽を聴いたことはありましたか（50%）」「御霊神社の枕太鼓は知っていましたか（35%）」「《船場通り名覚え歌》はうたえますか（20%）」というように、ほぼ半数が郷土の音楽への興味関心が薄かった。
しかし、実践後に行ったアンケートでは、「身のまわりの音楽に興味をもちましたか（100%）」「来年、お祭りに参加してみたいと思いましたか（92%）」「自分もお祭りで音楽を演奏してみたいと思いましたか（83%）」というように、自分たちの生活する地域に伝わる音楽への興味関心が高まり、さらには、自らの生活に繋げていきたいという意欲の高まりがみられた。
- 「パフォーマンス評価」を取り入れ、教師と共に進めながら、子どもたち自身によるルーブリックの作成・活用を行うことで、これからの自らの生活に繋げていきたいという姿がみられた。
- 全市公開授業参観者に行ったアンケートより、「郷土の音楽の発掘の方法がわかったので実践してみたい」「講演会における提案がとてもわかりやすく、郷土の音楽の教材化をぜひ図っていくことができるようにしたいと思った」という意見から、他校における教材開発の参考となる提案を行うことができたと考える。

6 研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。

日程 平成30年2月7日 場所：大阪市立開平小学校 参加者数：約50名

※上記の内容について、原則としてフォントは10.5ポイント、A4判2ページ（両面印刷1枚）で作成し、平成30年2月26日（月）までに、大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。（研究資料等を添付）